

にこやかに相談室に入ってきた23歳のJさん。
「よろしくお願ひします」。ペコリと頭を下げた。ファッション雑誌から抜け出てきたようなおしゃれで、素直な感じの女性だ。「えっと、何かから話せばいいの？」と緊張気味のJさんだったが、ゆっくりと話し始めた。

「大学卒業後、今の会社に入って企画関係の仕事をしています。ひとまわり以上年が離れた先輩の下で仕事をしているんですが、私、仕事ができないんです。自分にはこの仕事は合わないのかと思って」。そう言い終えるや否や、涙があふれてきた。私は、Jさんの気持ち落ち着くまで見守った。

聞いたところによると、仕事のできる先輩は何でも一人でさっさと進めてしまらしい。企画の実行間近になってあれこれ指示が入るにもかわらず、Jさんにはそれまでの経過説明は一切ない。あたふたしていると、結局先輩がやっています。「もつと自分

「できる先輩」の下で

「動かなければ」と思うもの、何をしたいのか見当が付かない。そして自己嫌悪に陥る。それがいつものパターンらしい。

「使えない後輩だと思われているかも」。目をしながらJさんはポツリとつぶやいた。

「うん、そうですね。Jさん、その話からそう感じう言われたいよね」。Jさんはこくりとうなずき、またほおを涙が伝った。頑張りたいたいという気持ち空回りしているなあ。

「でも先輩はすごくいい人で、いつもよくしてくれ。いじめてやろとか、困らせようと思ってる感じではないんですよ」。首をかしげながらそう話すJさん。もしかしたらその先輩は、今までは一人で仕事をしてきたから後輩

さんの話からそう感じう言われたいよね」。Jさんはこくりとうなずき、またほおを涙が伝った。頑張りたいたいという気持ち空回りしているなあ。

「でも先輩はすごくいい人で、いつもよくしてくれ。いじめてやろとか、困らせようと思ってる感じではないんですよ」。首をかしげながらそう話すJさん。もしかしたらその先輩は、今までは一人で仕事をしてきたから後輩

受け身から積極姿勢へ

「そう思われていたら悲しいし、悔しいよね」と私が言うと「そうなんですか。先輩から頼りにするって言われたくないかも」。私は、Jさん

「忙しくなりますね!」。Jさんに、笑顔が戻ってきた。最後に私はこう伝えて焦らないでください。一歩ずつ、です。すぐに一人前になれるから、大丈夫!自信を持って!



イラスト・多田くにお

(福井新聞社提供)